

第3回 市川・荷風忌

—震災へ想いを馳せつつ 荷風の短歌と俳句をしるぶ—

日本を代表する文豪・永井荷風（ながいかふう）は、関東大震災や東京大空襲を体験し、戦後、老境の日々を市川で送りました。1959年（昭和34）4月29日、自宅近くの大黒家で、いつものようにカツ丼と日本酒を取ったのち、翌30日未明、独りで息を引き取りました。享年79。

今年も市民の呼びかけにより、終焉の地において荷風を偲ぶ「市川・荷風忌」を開催する運びとなりました。荷風の短歌と俳句をテーマに、震災へ想いを馳せつつ、「〈文学〉の意義」を考える機会としたいと思っております。

日時 2011年（平成23） 5月 1日（日） 14時30分～17時（開場 14時）
会場 市川市グリーンスタジオ（市川市生涯学習センター 2階） 定員200名（無料）

14時30分～14時50分 プロローグ「朗読で味わう荷風の詩歌」市民有志

14時55分～16時 講演「市川の荷風散人」近藤信行氏（山梨県立文学館館長）

16時～16時5分 休憩

16時5分～16時35分 講演「荷風の俳句」中島玄一郎氏（俳人）

16時35分～16時50分 フロアトーク 終了後、希望者で大黒家にて懇談会を予定（各自で移動・実費負担）

呼びかけ人 「市川・荷風忌」実行委員会

秋山忠彌（江戸史研究家）
岡本文子（和洋女子大学教授）
梶山俊夫（画家）
神作光一（歌人）
神田重幸（元東洋大学教授）
木谷喜美枝（和洋女子大学教授）
吉清英夫（月刊「いちかわ」編集発行人）
能村研三（俳人）
橋本敏男（文筆家）
葉山修平（作家）
増山孝子（大黒家女将）
山崎敬生（風の会）
吉井道郎（作家）
吉原 廣（劇作・演出家）

永井荷風「めでたさは翁に似たるあこの髭
一九三一年（昭和六） 角も羊はまろくをさめて」
永井永光氏提供



文学プラザ（3階）で開催中の企画展
「いちかわの詩歌（うた）びとたち」にて
永井荷風と詩歌の関わりについて展示中
（6月26日まで 10時～17時
月曜休館）

中央図書館（1階）には
永井荷風コレクション、
グリーンギャラリー（2階）では、
「市川の永井荷風」パネル展が
あります。

272-0015 市川市鬼高1-1-4
生涯学習センター3階

市川市文学プラザ

TEL 047-320-3354

FAX 047-320-3352

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/bunpla/>

プロローグ 「朗読で味わう荷風の詩歌」

朗読 松島庄吉郎 小宮恵美子 山田澄子 根岸英之
二胡 みんつゝ

- | | | | | |
|---|-----------------------------|--------------|------|-------|
| 1 | 「偏奇館吟草」(昭和18)より「震災」 | 松島 | (映像) | 関東大震災 |
| 2 | 「断腸亭日乗」昭和二〇年三月九日・一〇日より | 松島 | (映像) | 東京大空襲 |
| 3 | 「断腸亭日乗」昭和二二年三月二四日より | 俳句 小宮 | (映像) | 市川の荷風 |
| 4 | 「断腸亭日乗」昭和二二年四月二二日より | 短歌 山田 | (映像) | 市川の荷風 |
| 5 | 「断腸亭日乗」昭和二二年四月二八日より | 俳句 小宮 | (映像) | 市川の荷風 |
| 6 | 「葛飾土産」(昭和25)より | 短歌 山田 | (映像) | 市川の荷風 |
| 7 | 「手帖」昭和二四年暮より | 短歌 根岸 | (映像) | 市川の荷風 |
| 8 | 「乱余漫吟」『裸体』(昭和29)より 「静なる小みち」 | (会場の皆さんと一緒に) | | |

静なる小みち

松の林をぬふ小みち

生垣つゞきいくまがり。

木の芽かゞやき小鳥はうたふ。

われひとり歩み／＼て物おもふ。

静なるこの小みち

いづこにわれを導くや。

山路(やまぢ)ならねば眺めなし。

眺(ながめ)なければ道は平(たいらか)に

歩みはやすし。

樹(き)は繁れども林ならねば

梢(こずえ)あかるく空青し。

ふと思ふ。静なる小みち。明(あかる)き小みち。

わが運命(さだめ)もこの小みちの如くあれかし。

われは病みたり。つかれたり。

また何ぞ数奇(すうき)をのぞまむ。

波瀾(はらん)はわれを驚かし

変化はわれを恐れしむ。

懷疑(かいぎ)は出口なき洞窟(どうくつ)

恐怖は暗き森ならずや。

わが行末は唯(ただ)静に唯おだやかなれ。

平(たいらか)に明(あかる)きこの小みちの如く。

